

【樹木の部屋】

カシワ (ブナ科コナラ属 *Quercus dentata*)

和名 ; カシワ (柏、櫨、栢) **別名** ; カシワギ (櫨樹)、モチガシワ (餅櫨)

英名 ; Daimyo Oak、Japanese Emperor Oak、Kashiwa Oak

ブナ目 落葉高木 **原産地** ; 日本、中国、朝鮮半島

花言葉 ; 愛は永遠に、勇敢、独立、愛想のよさ、歓待

花の色 ; 薄い黄緑色



← 写真－1 カシワ

撮影日 : 2019 年 09 月 26 日

撮影場所 : 多賀大社

(滋賀県多賀町)にて

撮影者 : M さん

↓ 写真－2 カシワの葉

撮影日 : 2019 年 09 月 26 日

撮影場所 : 多賀大社

(滋賀県多賀町)にて

撮影者 : M さん



多賀大社へ参拝した際、境内の一角に見慣れた特徴のある葉を見つけました。樹そのものは、まだ幼木ですが、特徴のある葉でした。

カシワは、成長すると 15m に達する高木です。生長が早くて火や潮風にもよく耐えるので自然木を防風林に利用している地域もあるそうです。庭

木としては主に独特の姿の葉、幹の様子、樹形などを楽しみ、縁起木としても植えられます。

樹皮は縦に深い溝が入り厚くてコルク質です。葉は先が丸く、枝に近い方は細くなり、縁は深い切れ込みが入った鋸歯で、葉の裏には細かい毛が生えています。螺旋状に互生します。

花期は5～6月で、新葉を広げると同時に花を咲かせます。雌雄同株。雄花は枝からぶら下がるように10cmほどの長さになります。雌花は新しく伸びた枝の葉の付け根に5～6個がかたまって咲きます。花粉は風に乗って運ばれます。

donggriはクヌギに似て丸く、殻斗は先がとがって反り返る包が密生します。秋に枯れた葉は春までついたままで、新芽が出るまでは落葉はしません。

カシワの名前は「炊葉(かしは)」に由来するそうです。炊葉とは食べ物を盛る葉、いわば食器でカシワの葉がよく利用されていたことちなむそうです。カシワの葉が使われた理由は、細かい毛が葉にくっつきにくいためでもあったそうです。葉で餅を包んだ「柏餅」は広く親しまれています。また樹皮や葉、donggriは染色の材料となるそうです。

新しい葉が出るまで枝から枯れた葉が落ちない様子は「古いモノから新しいモノへ譲る」「代が続いて子孫繁栄」などに通じるということで縁起のよい木とされます。ユズリハも同じ理由で縁起木とされています。千葉や茨城ではカシワのことを方言でユズリハと呼ぶこともあるようです。また、「貸し(カシワ)はあるけど、借りん(カリン)なし」と言う縁起の担ぎ方もあるようです。家紋としても使われています。

自然樹形では枝が張って場所をとります。このため、庭木として利用するには適当な高さで芯を止めて高さを抑えます。そして幹から数本の太い枝をバランスよく出させ、そこから小枝を茂らせるように仕立てると見栄えも良くなります。幹から直接出てくる胴吹き枝や地際から出てくる枝(ひこばえ)は早めに付け根から切り落とします。樹形全体を整えるための剪定は葉が枯れた晩秋～春に芽を出す直前が適期です。また、春に伸び始めた枝は7月頃に生長が止まるので、伸びすぎた枝や邪魔な枝はこの頃に整理すると良いそうです。

<ちょっと一言>

＊ユズリハ：学名 *Daphniphyllum macropodum*

ユキノシタ目 ユズリハ科 ユズリハ属 常緑高木

＊カリン：学名 *Pseudocydonia sinensis*

バラ目 バラ科 カリン属 落葉高木